

## 『日本洋舞史年表V』の刊行にあたって

新国立劇場情報センターのご支援を得て、2004年から「日本洋舞史年表」の刊行を続けてまいりました。今年は、1981～1983年の3年分のデータを収録した「V」が出来ました。

日本の洋舞の歴史は、今だいたい100年ということになります。ひたすら西欧の舞踊を「輸入」して、なんとか海の向うの舞踊と肩を並べられるところまで追いつきたいと、懸命に励んだ100年でありました。

その間に、何か新しいもの、良いものは、外からやってくるという考え方を、日本の洋舞の世界は身につけてしまったようです。そうすると、より新しい西欧の技術を取り入れることに汲々とするあまり、古いものの価値に気付かず、簡単に捨ててしまうという姿勢が蔓延してきます。先人たちが身を削るようにして培ってきた数々の成果に対する敬意も、さほど払われているとは思えません。古いことは簡単に忘れられ、どんどん捨てられているのが、今の日本の洋舞界の現状ではないでしょうか。

「それはまずい!」「そろそろ日本独自の舞踊文化を自覚する頃なのではないか」と考えました。まず日本の洋舞の歴史を学ぼうということになり、仲間を募って、江口博さんという日本の洋舞評論の先人のひとりが「現代舞踊」という雑誌に95回にわたり連載した「洋舞五十年」を読むことになりました。そして私たちは、日本の洋舞界がすでに固有の「舞踊」をさまざまに育てていたことを知りました。これはとてもおもしろい勉強会でした。

その過程で、いつ、どこで、何が起こったかを正確に記したデータの整備が必要であり、その成果を多くの人たちに気付いてもらうベースとして「日本洋舞史年表」を作らないといけないという話を持ち上がりました。その場の勢いで、案外気楽に「やろう!」ということになったのですが、歴史的なデータの検証作業は、ひどく根気のいる仕事です。やるほどにその大変さをひしひしと感じている昨今です。やっと1983年までを仕上げました。しかし、20世紀をカバーするだけでも、まだ17年分のデータを整備しなければなりません。

データをたんねんに集め、それをじっと眺めているうちに、その中から先人たちが何を考え、舞踊の道に生涯を捧げたかが見えてきます。その業績に込められた彼らの心を伝えるために「日本洋舞史年表」の完成まで、がんばりたいと思います。どうか忌憚のないご意見をお寄せくださり、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

2008年3月

日本洋舞史研究会

稲毛 博美 (舞踊家)

薄井 憲二 (舞踊家、舞踊学者)

遠藤 豊 (アートディレクター)

國吉 和子 (舞踊評論・研究)

小林 健太 (バレエ制作)

雑賀 淑子 (舞踊家)

森 龍朗 (舞踊家)

山田奈々子 (舞踊家)

山野 博大 (舞踊評論家)